



































チャレンジ項目記入数

9

分類	No.	チェック項目	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																				
組織・公正な取引	1	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有、実践している。	協会の定款に則り、総会や理事会など、必要に応じ共有している。								8	9								17
	2	【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している。	熊本県の事業受託団体として法令を遵守した組織運営を実践している。																16	
	3	【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している。	ボランティア団体として不正競争行為には関与していない。										10						16	
	4	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当や専門部署などの体制を整備している。	理事会・臨時理事会を開催し情報共有や課題解決に取り組んでいる。役員担務を明確にし、対応できる体制を組んでいる。																16	
	5	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる。	著作権など知的財産に関する情報を共有し理解の浸透に取り組んでいる。引用する場合は出典を明確に表示するよう指示している。								8.2 8.3	9							16	
	6	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している。	観察会参加者の名簿などは傷害保険の関係もあり、1年間は保管し年度ごと廃棄している。また、参加者にも観察会以外の使用はしない旨公表している。会員に関する個人情報は会長と旅費支払い関係者のみ扱えるようにしている。																16	
	7	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー(※)との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している。(※利害関係者：消費者、投資家等及び社会全体)	活動を安定的に継続できるよう、関係者の意見を聴取し活動に反映させる。課題がある場合は速やかに理事会などで適切に対応できるよう対策を練っている。																16	17
	8	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応(ハラスメント・汚職・贈収賄防止)について認識を共有し、共に取り組んでいる。						5			8		10		12	13	14	15	16	17
	9	【災害や事故への備え】 ・地震や水害などの自然災害や事故などに備え事業継続計画(BCP)を策定し、訓練や見直しを行っている。										9		11		13.1			16	17
	10	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	コンプライアンス遵守、安全第一を掲げ新規会員の育成に取り組んでいる。年6回の養成講座を開講し毎年10人程度に新会員を確保している。新旧会員の交流を図る中で、技術・知識の継承に取り組んでいる。								8	9								17
	11	【公正な貿易】 ・フェアトレード商品の調達に取り組んでいる。		1	2			5			8				12	13	14	15	16	17
労働・人権	12	【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出自などによる差別や各種ハラスメントを防ぐ体制が整備され、社内で差別や人権侵害がないことを確認している。	不適切な行為が見られた場合は、差別であることを指摘し、差別しないよう取り組んでいる。情報を共有し拡大防止に取り組んでいる。				4.3 4.4 4.5	5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8		10.2 10.3						16.1 16.2 16.7	
	13	【労働安全衛生】 ・業務中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる。	イベント実施に際し、下見は必ず行い、危険箇所のチェックは欠かせない。イベント実施前にラジオ体操などを組み込んでいる。万が一に備え参加者及び会員の傷害保険に加入しており、必要時には保険支払い申請を実施している。			3					8.8									
	14	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している。	協会の定款に則って対処し、行動に見合う報酬を支払っている。					5.5			8.5		10.2 10.3							
	15	【ワークライフバランス】 ・働き方の見直し等により、過度な長時間労働を防止し、家庭と仕事の両立を図るためのワークライフバランスを推進している。	一握りの人に業務が偏らないよう分担制をとっている。イベントごとにスタッフとして参加出来るか希望をとり了解を得て年間計画を策定している。			3		5.5			8.5 8.8		10.3							
	16	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している。	熊本県より森林インストラクター養成事業を受託しインストラクターの募集協力や、会員のスキルアップのための自主研修・スキルアップ研修を実施している。				4	5.5			8	9								
	17	【健康経営】 ・従業員が心身ともに健康を維持できるよう対策を講じ、生産性の向上等に取り組んでいる。	観察会などの体験を通じて体力維持、知識の習得、やりがいの獲得などおこなっており、得意分野の拡充に取り組んでいる。			3					8									17
	18	【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材(女性、外国人、障がい者、高齢者等)が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる。	人種や性別などによる差別はない。山登りなどが無理な超高齢者には自主的に参加を自粛してもらっている。(技術や知識)				4.4	5.1 5.5			8.5		10.2 10.3						16.7	
	19	【新しい生活様式への対応】 ・新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策としても有効なテレワークや時差出勤、ウェブ会議等を導入している。	自然観察や森林ガイド実施に際し、参加人員を制限し参加者5人から7人程度にスタッフ1人を配置するなど、工夫している。			3					8	9.1		11	12					
	20	【デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進】 ・ICTやAIを活用したデジタル化やオンライン化等のDXの推進により業務の効率化やビジネスモデルの変革に取り組んでいる。	イベント参加申し込みは、メールやFAX受付を主体にしている。ハガキでの申込者には、なるべくメールでお願いし、操作に自信がない人には簡単な説明を行い、次回からメールが使えるよう助力している。WEB会議の導入は残念ながら予算の関係から見送りとなりました。								8	9.1		11	12					
	21	【プライト企業】 ・プライト企業に認定されている。				3	4				8	9			12					


















チャレンジ項目記入数

9

分類	No.	チェック項目	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																				
環境	22	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。	プラスチック製品はなるべく使用しない。不要物となった物の利活用に取り組んでいる。			3.9			6.3					11.6	12.4		14.1	15.1		
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	イベント実施に際し、会員のガソリン使用料の削減を図るため、遠距離地からの参加に伴う旅費を削減することで、開催場所付近の会員参加を促している。会員にも趣旨を理解してもらうため機会あるごとに説明を実施している。							7.3						13				
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	安全に運転することで大気汚染を軽減する。燃料の消費量の把握し、減少に取り組んでいる。		2.4					7.2 7.3 7.a					12.4	13	14	15		
	25	【生物多様性】 ・自社活動が環境(生物多様性や生態系等)に悪影響を及ぼさないように配慮している。	大津の森では樹木の枝打ちや間伐により下層植物の育成環境を整え、生物多様性、生態系の保全に取り組んでいる。						6.6								14	15		
	26	【効率的な資源利用】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組んでいる。	備品や物品を大切にし廃棄物を減らす。間伐材を小屋の材料などに活用している。									9.4			12.2 12.4 12.5		14.1	15		
	27	【水の管理】 ・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。	ゴミは持ち帰る。森や竹林を整備することで土砂の流出を防止し水源涵養に寄与している。		2.4				6.1 6.3 6.4 6.6 6.b					11.5			14.1 14.2 14.3	15		17
	28	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる(グリーン購入、リサイクル製品認証等)。	再生紙や文房具など環境に配慮した製品の購入を行っている。									9.4			12.4 12.5	13	14	15		
	29	【食品ロスの削減】 食品ロスの削減に取り組んでいる。		1	2				6.4						12.3		14	15		17
	30	【緑の保全管理】 ・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。	「小山山」や「大津の森」を主体にして森づくり活動(植林・下草刈り・間伐・竹の切り出し)を実施している。											11.6 11.7		13.1 13.3		15		17
	31	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善またはや再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる。								7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.5		13.1 13.3				
	32	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・"伐って、使って、植えて、育てる"の持続的な森林利用への取組みを推進している。	いろんなイベントで竹細工(バナーナイフ、竹鉄砲、ウグイス笛など)や葉っぱのブローチ、小枝の鉛筆など作成手助けを行うとともに、更なる活用を検討している。シイタケ栽培など林産物の活用に取り組んでいる。						6			9.4		11.3 11.4 11.5	12.2	13		15		
	33	【植林等の取組み】 ・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。	森林整備活動への参加者を募り、楽しみながら森の成長を見守っている。						6.1 6.3 6.6					11.3 11.4 11.5	12.2	13		15		
	34	【海洋ごみ】 ・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。													12.2 12.5		14			
	35	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。	イベント会場の近隣会員にスタッフとなってもらうことにより異動の削減＝ガソリン消費の削減に取り組んでいる。									9.4		11.2		13.1 13.3				
	36	【2050年CO2排出量実質ゼロへの取組み】 ・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、計画的にCO2削減に取り組んでいる。								7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.6 11.a	12.8	13				17.2

チャレンジ項目記入数

9

分類	No.	チェック項目	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																				
製品・サービス	37	【製品・サービスの安全性と品質】 ・製品・サービスの安全性や品質を確保する仕組みを構築している。	『自然観察会』『森林ガイド』などのイベントを通じ参加者の心身のリフレッシュ、体力維持を図るため、事前の下見でルートの危険箇所を排除し、ルートの変更を含め安全第一に実施できる体制を構築している。			3.9						9			12.4					
	38	【ユニバーサルデザイン】 ・障がい者、高齢者に特定せず、誰もが利用しやすいサービス提供や環境整備を行っている。	観察会や森林ガイドには3歳から80歳までの参加者があり、体力に応じたコース設定、時間配分、屋内作業の組み込みなど工夫し、楽しめて知識の習得にも役立つイベントにするためグループで検討し実施している。									9.1	10	11.7						17
	39	【地域資源】 ・地産地消を推進し、熊本県産の原材料を優先的に使用している。			2.3 2.4					7.3	8	9		11.a	12.3	13	14	15		17
	40	【木質化の取組み】 ・自社の執務室等の天井や床、壁等の内装や外壁等に木材を使用し、木質化を推進している。								7					12.2	13.1		15		
	41	【社会課題解決】 ・社会課題を解決するための製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる。		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	42	【攻めの農林水産業】 ・地域における産学官連携等による新たな品種開発を促進するなど、地域レベルで農林水産業の生産能力向上に取り組んでいる。			2.3 2.4						8.2	9.2 9.4		11.a	12.2		14	15		17
持続可能な社会・地方創生	43	【地域への参画】 ・自治活動や福祉活動、防災活動や寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。	小江山では、自治体や関係機関と協定を結び、放置竹林や森林で下草刈りや伐倒を行い、水源涵養、CO2削減、水害防止など地域の防災に取り組んでいる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	44	【防災、減災、レジリエンス(自助)】 ・過去の地震や水害などの災害を教訓に、事業への被害を防止・軽減するため、ハザードマップを確認し、避難行動計画や事前防災対策を進めている。	事務所にハザードマップを張り出して注意喚起している。				4							11.5		13.1			16	
	45	【防災、減災、レジリエンス(共助)】 ・地域防災の担い手としての認識を持ち、防災士、水防団員、救助救急等の必要な技能を持つ社員を育成したり、地域消防団の活動に参加している。		1.5		3	4						10.2	11.5		13.1			16	17
	46	【防災関連商品の開発・販売】 ・防災関連商品の開発・販売を促進している。										9		11	12	13.1				
	47	【SDGsの普及啓発】 ・環境問題や人権問題をはじめとした社会課題の解決に向け、SDGsの普及啓発や教育機会の提供を行っている。	当協会は28年間継続して活動しており、事業継続もSDGs項目であることを認識したうえで、会員に周知を図り、自然観察などイベントの際に参加者にもSDGsに取り組むよう会話に組み込んでいる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	48	【インターンシップ等の受入れ】 ・職場体験、インターンシップの受入れ、職場関連授業の実施など、地域の児童や学生に対し、職業の学びの場を提供している。					4				8.6		10.2							17
	49	【若者の地元定着等】 ・若者の県内就職を促進する取組みを行っている。					4.4				8.5 8.6									17
	50	【農林水産業の担い手確保】 ・子どもに対する農林水産業教育を行うなど、地域における農林水産業従事者の確保に取り組んでいる。	熊本県林業育成基金から林業の担い手を育てるための講座や実習業務を受託し、林業大学生の林業への関心の高揚を図り、森林の大切さなどを伝えている。また、イベントの際、子供たちには動植物の共生などを伝え森の大きさを伝えている。		2		4.3 4.4 4.5				8.6		10.2		12	13	14	15		17